大阪工業大学図書館報

はやぶさ にくす

No.127 2025.7
ISSN：0287-8194

大阪工業大学
OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

目　次

「図書館の雰囲気」（横川 美和）・・・・・1-2
図書館員が薦める一冊・・・・・・・・・・3-4
君に薦める一冊の本（三方 康弘）・・・・・5-6
ライブラリーサポーター書評・・・・・・・7
図書館からのお知らせ・・・・・・・・・・・8

「図書館の雰囲気」

大阪工業大学 情報科学部 実世界情報学科
教授 横川 美和

図書館といってまず思い浮かぶのは、図書館の独特の雰囲気：漂っている”気”のようなものです。まずそれを意識したのは自分の大学時代です。私がいた大学では図書館は夜の10時まで開館しており、授業が終わってからサークル活動などをし、寮に帰って夕食や入浴などを済ませてからまた自転車をこいで図書館へ行ってレポートを書くというのがほぼ日課になっていました。大学で理学系の学部に入り、様々な分野の勉強をし始めると、学問体系の奥深さを感じ、先人が築き上げてきた智の集積が本の形になってそこにある、という感慨が湧いてきました。静かな夜の図書館で書架の間を歩いていると、その本の間から、先人たちの英気、情熱や思いが本の間から滲み出しているように感じたのです。

もう一つ非常に印象的な図書館体験としては、大学教員になって間もない頃に在外研究員として1年間滞在したマサチューセッツ工科大学(MIT)の図書館があります。私は地球惑星科学研究科にいましたが、MIT全体として複数ある図書館をどこでも使うことができました。開館時間がそれぞれに異なっていて、サイエンス・ライブラリはなんと24時間開いていました。

真夜中に行ってもそこにはかなりの人数の人がいて、本当にサイエンスの先端にいて、寝る間も惜しんで研究をしたい、あるいはしないと競争に勝てない厳しい世界がその裏にあることをひしひしと感じさせられました。

一方、地球惑星科学棟の図書館は面白くて、平日は夜10時位まで開館、土曜日は午後3時頃まで、そして日曜日は午後3時頃から開き始めてなんと日曜日の夜中まで開いているのです。日曜日の夜に行くと結構賑わっていて、週末遊んできて、週明けの授業の課題ができていない学生さんたちがそこに集まってワイワイ言いながら課題を片付けていました。そこで事務作業をやってくれているのもアルバイトの学生さんで、「その本ならあそこにあるよ」などアドバイスをくれたり、和気あいあいとした雰囲気があり、素晴らしい運用だなと思いました。さらに印象的だったのは、MITの中でも、一般の人が多く通るメインの通りに面している図書館です。そこは日曜日も開館していて、日曜日に行くと一般の市民がたくさんいて、皆、思い思いの本を読んだり、調べ物をしたりしていました。私の単なる個人的な印象ですが、そこにいる人たちがすごく誇らしげに、「MITの図書館で勉強してるのよ」みたいなちょっとドヤ顔しているように見えたのです。市民に愛され、この図書館・この大学があってよかったな、と思われているのではないかと感じました。大学と言うのは地域と結びついて地域の人に愛されるような場所であるべきではないかという考えが、この時に私の中に根付きました。大阪工業大学の図書館、特に枚方の図書館も、学生さんはもちろんのこと、一般の人にも愛される空間であればいいなと思っています。

学生の皆さん、大学の中のお気に入りの空間の1つにぜひ図書館を加えてみてください。本を読むだけではなく、何か創作活動をするとか、図書館の雰囲気の中に身を置くと、必ず、アイディア・インスピレーションが沸く、そんな場所の1つにしておいてもらえたらいいのではないかと思います。図書館に行くと何か面白いものがあるぞと思ってもらいたいと考えて、枚方の図書館には化石・岩石鉱物の展示コーナーを作っていただいています。自然が生み出したものを頭にインプットしておくと、必ず将来、皆さんの引き出しの1つになると私は思っています。今度時間のあるときには、化石・岩石鉱物コーナーもぜひ見てみてくださいね。(入館ゲートを入った左側に展示)

図書館員が薦める一冊

テーマ 夏に向けて

【大宮本館】

世にも奇妙な博物館 未知と出会う55スポット

著者：丹治俊樹

出版社：みらいパブリッシング

資料ID：91211033

請求記号：069.021||T

配置場所：工大5F一般図書 棚3

博物館マニアの著者が、全国各地の一風変わった博物館の数々を紹介しています。巨大な“カニの爪オブジェ”がある「北海道立オホーツク流氷科学センター」（北海道）・「学校給食歴史館」（埼玉県）・昭和レトロな品々が見られる「氷見昭和館」（富山県）・「世界の貯金箱博物館」（兵庫県）などなど。日本にこんな博物館があるのか！と驚かされます。ワクワクしたり、考えさせられたり。「知る喜び」にあふれた博物館を、この夏訪ねてみませんか？

万博の100の物語

著者：久島伸昭

出版社：ヨシモトブックス

資料ID：91220618

請求記号：606.9||K

配置場所：工大6F一般図書 棚23

EXPO2025大阪・関西万国博覧会が4月13日～10月13日の日程で開催されています。この機会に170年余り続く万国博覧会史を100の短いエピソードとして紹介している本をお薦めします。大阪では太陽の塔が有名な1970年の万博がよく取り上げられますが、1990年にも大阪花と緑の博覧会も行われ、そこから引き継がれた活動を知ることができました。万国博覧会で生まれ引き継がれた、アート、ブランド、飲食物、乗り物、音楽などについての短い物語を楽しんでください。

【梅田分館】

悪い夏

著者：染井為人

出版社：角川文庫

資料ID：97240346

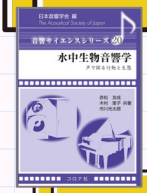
請求記号：913.6||S

配置場所：工梅原作本

「今、自分を取り巻くこの現実がすべて夢であってほしい。暑すぎる夏が、悪い夢を見せているのだ。」26歳の守は市役所の生活福祉課でケースワーカーとして生活保護受給者や窓口相談者と日々接している。ある日同僚が生活保護の打ち切りをちらつかせ、受給者女性を脅していると知りその女性の家を訪れるが、その出会いをきっかけにもがき苦しめど抜けられない、かつてどこか「底辺」と蔑んでいた世界へと足を踏み外してゆく。そして破滅の日がやってくる。「我が身に絶対同様の出来事など降りかからない」ともいえない、誰かの人生という物語「悪い夏」の一端を、覗いてみませんか。

【枚方分館】

水中生物音響学



著者：赤松友成
木村里子
市川光太郎

出版社：コロナ社

資料ID：81800862

請求記号：481.72||A

配置場所：工枚普通図書

「今年の夏、“海の声”に耳を澄ませてみませんか？」
夏を想像してください。多くの人は青く澄んだ空と海を想像するはずです。そんな深い海の中では、生き物たちが“音”で語り合っています。クジラが数百キロ先にいる仲間へラブソングを送り、イルカが超音波で魚の群れを捕まえています。ときには威嚇したエビが海底で鳴いているかもしれません。この本では生物の鳴く機能や理由だけでなく、船や海洋開発の“騒音”が海に与える深刻な影響なども解説しています。
この夏、ただ海に行くだけじゃもったいない。
ぜひ海の音も楽しんでみるのはいかがでしょう。

君に薦める一冊の本

工学部
都市デザイン工学科
教授　**三方 康弘**

私達の身のまわりにある土木構造物や建築物には多くのコンクリートが使用されており、欠くことのできない建設材料です。今回、紹介する本は、一般の方にコンクリートを理解いただくために、出来るだけ専門用語を用いずに平易な表現を用いて解りやすく伝えることを目的として執筆されたものです。そのため、都市デザイン工学科や建築学科以外の学生の皆さんにも、コンクリートを理解いただくきっかけになると思います。

第1章の「コンクリートとはどんなもの？」では、コンクリートを構成する材料、コンクリートが固まるしくみを紹介しています。

第2章の「コンクリートのルーツをたどる」では、コンクリートの起源として、古代ローマコンクリートなどを紹介しています。セメント工場が無かった時代に石灰と火山灰を用いてコンクリートが製造されていたことが紹介されており、ローマ市内にあるパンテオンは長い年月を経ても健全な状態を維持しており、当時の技術の素晴らしさを現代に伝えてくれています。

第3章の「コンクリートのレシピ」では、コンクリート材料であ

るセメント、水、砂、砂利を混ぜる割合（配合）について、紹介しています。

第4章の「強さの秘密」では、1908年に完成した小樽港北防波堤に触れ、100年経過しても機能を維持していることを紹介しています。また、鉄筋コンクリートやプレストレストコンクリートなどの構造的な仕組み、構造物が地震に抵抗するメカニズムについて紹介しています。

第5章の「現場の不思議発見」では、コンクリート工事の初期欠陥の事例と予防対策、生コン車やポンプ車の仕組み、橋の建設方法について紹介しています。

第6章の「いろいろな構造物」では、海上で油を貯蔵するプラットフォームや水を貯蔵するタンク施設を紹介しています。

第7章の「コンクリートの診断」では、塩害やアルカリシリカ反応などのコンクリートの劣化現象を説明し、それらの診断方法について紹介しています。

第8章の「コンクリートの維持管理」では、コンクリート構造物の補修補強方法やインフラ施設の維持管理・更新投資の見通しについて紹介しています。

第9章の「コンクリートと環境・未来」では、CO2削減技術、リサイクル技術、未来の技術として月面に活用することを想定したコンクリートなどを紹介しています。

コンクリートが硬化する現象は化学反応で説明できますが、地震に耐える機構は力学の視点で捉えます。また、コンクリートの診断には電磁波や弾性波を活用します。そのため、コンクリートを学ぶことは自然科学の様々な知識を活用することになります。古代から現在まで先人達の技術を継承し、発展させることにより現在のコンクリート技術があります。そして、未来を見据えたコンクリートの新技術が日々研究開発されています。それらの技術に触れることが出来る一冊です。是非、手に取って読んでみてください。

サポーター書評

大阪工業大学図書館では学生ボランティア団体のライブラリーサポーターが活躍しています。
今回は枚方分館所属のサポーターさんに書評を寄稿していただきましたので、ご紹介します！

「女生徒」

著書：太宰 治

評者：岡田 舞（IM科　3年生）

知らぬ誰かの一日であるのにどこか既視感を覚える。

この本は高校に通う女生徒のある一日を切り取った小説だ。主人公は、鏡の中の自分・眼鏡・傘・通勤者……何か見る度に想像・妄想を膨らませ、感情を波のように変化させていく。

特に印象に残ったのは、『「本当の意味の」とか「本来の」とかいう形容詞がたくさんあるけれど、「本当の」愛、「本当の」自覚、とは、どんなものなのか、はっきりと手にとるようには書かれていない。』という一節だ。

たしかに私たちも「本当に大切なこと」などと語ることはあるが、その「本当の」意味を理解しているのか、と問われると戸惑ってしまう。

この曖昧さの裏には、語る側自身が「本当の何か」に確信を持てていないという共通点がある。そして、たとえ確信を持てていても民意とずれていれば善行であっても、それが認められないこともあるという気づきにもつながった。主人公の世間に対する不安を垣間見ることができる。

こんなふうに日々の中で違和感や悩みを抱えている人にこそ、この作品を手に取ってほしい。明日への小さな希望を見つけるために。

所蔵館：大宮本館
配置場所：工大4F文庫本
資料ID:91170331

所蔵館：枚方分館
配置場所：*********
資料ID:*********

所蔵館：梅田分館
配置場所：**********
資料ID:*********

図書館からのお知らせ

２０２４年度　図書館利用状況

大宮本館・梅田分館・枚方分館の利用統計は下表のとおりです。
各館とも、図書館の利用人数の増加とともに、貸出冊数も年を追うごとに増えています。学生をはじめ多くの利用者が、自主学習の場として図書館を利用していることがうかがえます。
2025年度も、ぜひ図書館をご利用ください。

区　分		大宮本館	梅田分館	枚方分館	合　計
開館日数	2024年度	282日	287日	280日	－
	2023年度	265日	284日	284日	－
	2022年度	286日	286日	286日	－
入館者数	2024年度	112,900人	61,911人	17,013人	191,824人
	2023年度	89,710人	60,428人	19,054人	169,192人
	2022年度	35,303人	53,011人	20,503人	108,817人
一日あたりの平均入館者数	2024年度	400人	216人	61人	677人
	2023年度	339人	213人	67人	619人
	2022年度	123人	185人	72人	380人
貸出者数	2024年度	9,811人	2,764人	2,672人	15,247人
	2023年度	8,248人	2,228人	2,869人	13,345人
	2022年度	7,496人	2,109人	2,993人	12,598人
貸出冊数	2024年度	17,251冊	4,421冊	4,744冊	26,416冊
	2023年度	15,153冊	3,710冊	4,892冊	23,755冊
	2022年度	14,025冊	3,601冊	5,516冊	23,142冊